

小学校

平成25年度

# 教育研究員研究報告書

## 特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点、III 研究仮説、IV 研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	
1	基礎研究	4
2	実態調査	6
3	実践研究	
	視点1に関する手だてと児童の変容	10
	視点2に関する手だてと児童の変容	14
	視点3に関する手だてと児童の変容	18
	視点以外の手だてと児童の変容	22
VII	研究の成果と課題	24

<研究主題>

## 互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童の育成

### I 研究主題設定の理由

今日、児童は急激な社会の変化に適応しながら生きている。しかし、中央教育審議会答申（平成20年）では、自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られると指摘されている。これらの背景から、平成20年の学習指導要領の改訂において、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成が重視された。

社会性の基礎を身に付けるためには、児童が互いのよさや可能性を認め合う中で、与えられた役割を自覚し、責任をもって果たす必要がある。このような経験を積み重ねることが、よりよい生活を築いていくことにつながる。そこで、本研究では研究主題を「互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童の育成」と設定し、その指導方法を追究する。

本研究において「認め合い」とは、「多様な他者との人間的なふれ合いの中で、自他のよさや可能性に気づき、理解すること」と捉えた。児童一人ひとりが自分の考えをもち、伝えることができるともに、友達の考えを大切にしていきていくことができることが、よりよい生活を築く基礎であると考えた。また、本研究では、学級集団が学校における全ての集団活動の基盤であると考え、研究主題に「学級生活」という言葉を選択し、学級活動に焦点を当てることとした。そして、研究主題に迫る具体的な児童の姿を次のように設定した。

#### <目指す児童像>

進んで自分の役割を果たし、協力して取り組む児童  
友達の意見を大切にし、よりよい集団決定を目指す児童  
生活や活動・実践を振り返り、次に活かす児童

互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童を育成するためには、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実させるばかりでなく、集団決定したことを実践し、振り返るまでを一連の活動として指導していくことが大切である。本研究では、これらの活動の効果的な指導方法について追究することとした。

## II 研究の視点

研究主題より、3つの視点を設定し、研究を進めることとした。

### 1 役立っていることの実感

互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童には、進んで自分の役割を果たし、協力して取り組む姿が期待される。当番や係活動など、個々の役割分担を通して、一人ひとりが十分な達成感を得ることが大切である。そのためには、集団の一員としての自覚をもって活動に取り組ませるとともに、教師や友達からの価値付けが必要だと考えた。

### 2 話合いの充実

互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童には、友達の意見を大切にし、よりよい集団決定を目指す姿が期待される。友達のよさを理解し、安心して思いを伝え合う話合い活動の経験が必要である。そのためには、発達段階や学級の実態に基づいた多様な内容を扱うとともに、話合いを自治的に進められるように教師が助言したり、指導したりすることが必要だと考えた。

### 3 次に活かす振り返り

互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童には、生活や活動・実践を振り返り、次に活かす姿が期待される。活動後に成果や課題を整理し、次の活動に活かすサイクルを経験する必要がある。そのためには、日々の生活や話合い活動、実践を一連の活動として指導し、児童が成果と課題を実感できるような活動の工夫が必要だと考えた。

## III 研究仮説

研究の視点を追究していくことで、研究主題に近付けると考え、以下を仮説とした。

児童一人ひとりが、学級生活において役立っていることを実感できるようにするとともに、話合いを充実させ、次に活かす振り返りを行うことによって、互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする児童が育つであろう。

## IV 研究方法

### 1 基礎研究

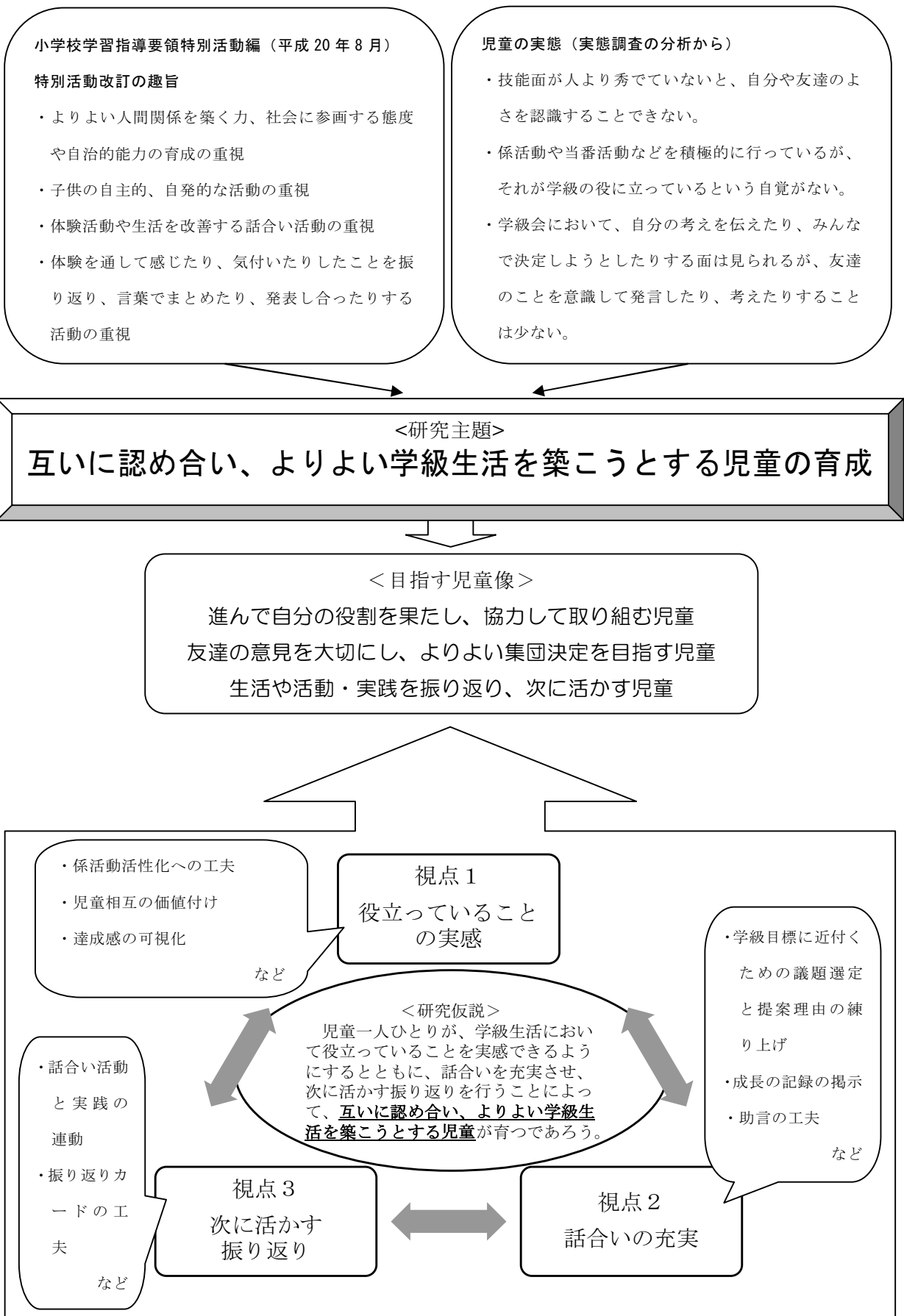
### 2 実態調査

- (1) 調査方法…質問紙による。
- (2) 調査対象…教育研究員所属都内公立小学校13校児童より抽出

### 3 実践研究

- (1) 学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」における検証授業
- (2) 学級活動(2)「日常の生活や学習への適応および健康安全」における検証授業

## V 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 基礎研究

本研究の主題、視点について、学習指導要領や参考文献を基に考察し、教育研究員間で共有化を図った。

#### (1) よさを認め合う

本研究では、「互いに認め合い」と主題に設定した。これには、自他のよさを認める支持的な学級風土の醸成を目指すとともに、児童一人ひとりに、自分への自信を高めさせたいとの思いがある。小学校学習指導要領解説特別活動編には、自分への自信は、互いにふれ合い、協力し合い、認め合う中で育まれるものであり、これらを発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度が身に付くように配慮することが大切であると記されている。主題に迫るためには、望ましい集団活動が展開されるよう、十分に配慮する必要がある。

また、何を「よさ」として捉えるか、また、どのような場面において認め合っていくのかを整理した。まず、「よさ」とは、「他者と比べて秀でた能力」だけではなく、「個性や努力できる力、態度や成長なども含めたもの」と捉えた。これを話し合い活動（計画委員会、フロアー）、集会活動、係活動、当番活動など、多岐の場面において、児童の活動を価値付ける際の規準とした。

さらに、児童が集団生活の中で自己を生かして自己実現するようにするためには、「自己指導能力」の育成も不可欠である。そのため、研究の視点を支える実践として、活動内容（2）の指導にも着目していく。

#### (2) 望ましい集団活動

小学校学習指導要領解説特別活動編には、「望ましい集団活動を通して」とは、一人ひとりの児童が、互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができるような実践的な方法によって集団活動を行ったり、望ましい集団を育成しながら個々の児童に育てたい資質や能力を育成したりする特別活動の方法原理であると示されている。

この望ましい集団活動の条件を、集団の機能という面から捉え直してみた。「集団の機能には「課題達成機能」と「集団維持機能」の2つの機能があり、この2つの機能のバランスがとれていることが、望ましい集団活動の一つの条件となるとしている。また、集団の機能を集団と個人の視点で整理したものが、以下の表である。

	課題達成の機能：生産性	集団維持の機能：凝集性
集団	A 活動の成果・課題達成度 (よい成績、出来映え、結果など)	B 集団の凝集性・まとまり (仲間意識、人間関係の深まり)
個人	C 個人の活動への貢献度 (「集団のために役立つことができた」という主観)	D 個人での集団の中での安定感 (「この集団に居やすくなり、楽しくなった」という主観)

この4つの機能が効果的に働くようにすることが『望ましい集団活動を通して』ということ<sup>1</sup>であると示している。

このことから、児童一人ひとりが「集団のために役立つことができた」という自覚をもつことは、望ましい集団活動を展開する上で重要な側面を担っていると捉え、本研究の視点の一つとして位置付けた。

【参考文献】『よりよい人間関係を築く特別活動』杉田洋、図書文化社、2009

### (3) よりよい学級生活を築こうとする

本研究では、研究主題を、よりよい学級生活を「築く」ではなく、「築こうとする」とした。これは、よい学級生活を一時的に築く状態、もしくは築く実践をしている児童の姿を目指すのではなく、よりよい学級生活を築こうとし続ける児童の姿を目指したためである。また、以下の考えに基づく。

学級会（話し合い活動）は、児童が自発的、自治的に学級や学校の生活の充実と向上に関する諸問題を話し合って解決する活動である。生活上の諸問題を話し合いで解決したり、進んで自分の考えを表現したり、意見の異なる人を説得したり、共同的に議論して他者の思いや願いなどを理解して集団としての意見をまとめたりする話し合いが展開されることが予想される。この活動の中では、「論を戦わすことに終始するのではなく、<自分もよく、みんなもよいこと>を見出す話し合いにしていかななくてはならない。（中略）こうした活動の過程で相互的な信頼関係が深まる。」<sup>2</sup> このことから、話し合いを充実させることは、互いに認め合い、よりよい学級生活を築こうとする上で重要な側面を担っていると捉え、本研究の視点の一つとして位置付けた。

また、集団決定したことを実践し、次の活動に活かせるように振り返りや価値付けを行うことで、児童の自発的な生活問題の発見を促すことにつながると考えた。まさに「なすことによって学ぶ」特別活動の原理に適っている。そこで、よい学級生活を築くための問題発見ができる児童の姿を目指し、本研究では、次に活かす振り返りを視点の一つとして位置付けた。

---

<sup>1</sup> 『特別活動の教育技術』杉田洋、小学館、2013

<sup>2</sup> 『学級会で子どもを育てる』宮川八岐、文溪堂、2012

## 2 実態調査

(1) 調査目的：児童の学級生活と学級活動に関する意識について実態把握を行い、適切な指導の手だてを講じる。

(2) 調査対象：教育研究員の所属する都内公立小学校13校より、73学級抽出

調査対象学年	調査を実施した学級数	調査対象学年	調査を実施した学級数
第1学年	12学級	第4学年	11学級
第2学年	12学級	第5学年	13学級
第3学年	12学級	第6学年	13学級

回答総数 1,865人

(3) 調査時期：平成25年7月

(4) 調査結果

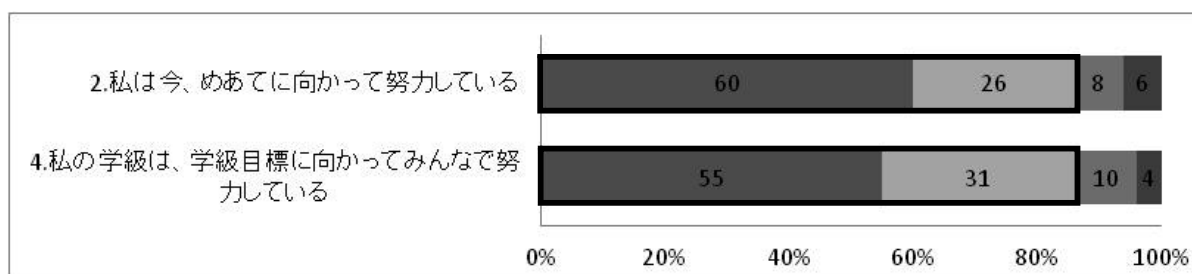
	質問	A	B	C	D
1	私には今、学校生活で頑張りたいことやめあてがある	69%	23%	5%	3%
2	私は今、1のめあてに向かって努力している	60%	26%	8%	6%
3	私の学級には、みんなで頑張るめあてがある	81%	13%	4%	2%
4	私の学級は、3のめあてに向かってみんなで努力している	55%	31%	10%	4%
5	私はこの学級のみんなといると安心する	61%	28%	7%	4%
6	私は、自分のよさを分かっている	43%	31%	14%	12%
7	友達は、私のよさを分かってくれている	44%	34%	12%	10%
8	私は、友達のよさを分かっている	71%	19%	5%	5%
9	私は、学級のために役立つことをしている	39%	35%	19%	7%
10	この学級に不安や悩みも何でも話せる友達がいる	51%	24%	13%	12%
11	この学級は、学級の困ったことや問題を一緒に解決していける	50%	32%	12%	6%
12	私は、学級で決めたことに対して、協力して取り組んでいる	53%	34%	9%	4%
13	私は、友達の立場や気持ちを考えて行動している	46%	38%	12%	4%
	(以下、学級会に関連した質問項目)				
14	私は、自分の案をもって参加している(ノート、カードへの記入)	52%	30%	12%	6%
15	私は、友達の案について自分の意見を伝えている	43%	31%	18%	8%
16	私は、誰の意見かではなく、意見の内容で判断している	56%	28%	11%	5%
17	私は、友達の意見に納得したら自分の考えを譲っている	55%	31%	9%	5%
18	私は、うまく発言できない友達がいたら、代わりに説明している	30%	27%	26%	17%
19	私は、話合いがうまく進むような発言をしている	28%	31%	27%	14%
20	私は、複数の意見を生かす方法を考えて、発言している	33%	30%	25%	12%
21	私は、決定の際に、採用されなかった案をどうするかも考えている	32%	29%	24%	15%
22	この学級は、全ての意見を確認してから決定しようとしている	56%	28%	11%	5%
23	この学級は、みんなが納得できる状態になってから決定しようとしている	57%	29%	9%	5%

(A:当てはまる B:どちらかという当てはまる C:どちらかという当てはまらない D:当てはまらない)



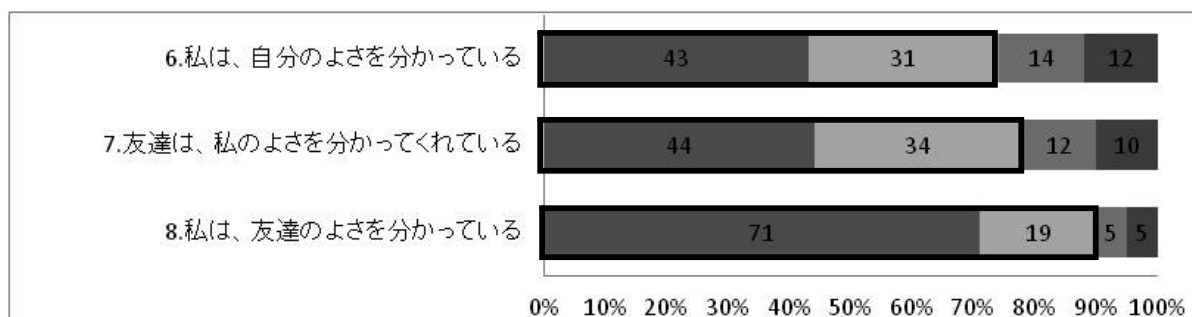
## (5) 調査結果の分析

### 《めあてに対する取組》



項目1～4からは、設定した目標に対して前向きに取り組む実態が見られる。この児童の意欲を、さらに、よりよい学級生活を築こうとする態度へとつなげていくためには、活動の振り返りを効果的に行う必要がある。そのため、学級活動においては、話し合い活動と実践とを一連の活動として捉え指導していくことが大切であると考えた。

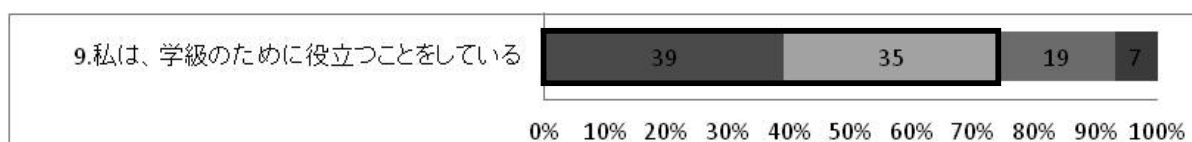
### 《自他のよさへの理解》



「8. 私は友達のよさを分かっている」では、9割の児童が肯定的な回答（当てはまる、どちらかという当てはまる）をしているにも関わらず、「6. 私は自分のよさを分かっている」「7. 友達、自分のよさを分かってくれている」の項目では、否定的な回答（どちらかという当てはまらない、当てはまらない）が多かった。個別に自身のよさについて質問すると答えられるのに、質問紙においては項目6で「当てはまらない」と答える児童も見られた。また、「友達のよさ見付け」などで、友達からよさを言われても、言われたことが自分のよさだと認識する児童が少ない。記述や聞き取りから、児童は技能面において他者より秀でていないと、自分への自信がもちにくいことが分かった。

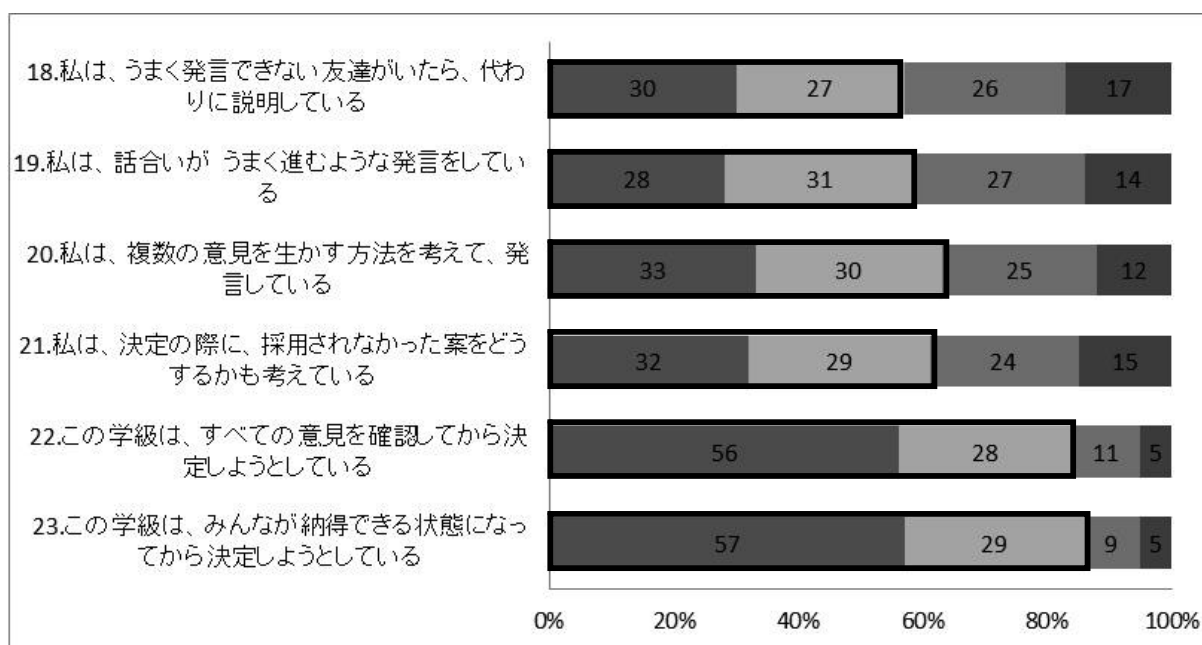
以上の実態から、日常的に児童のよさを教師が価値付けたり、児童同士が認め合ったりする機会を設けることが必要であり、これらの機会が、自分への自信とつながっていくのではないかと考えた。

《役割意識》



「9. 私は学級のために役立つことをしている」の項目では、四分の一の児童が、否定的な回答（どちらかというとはまらない、当てはまらない）をした。否定的な回答をした児童も、係活動や当番活動などを積極的に行っているように見受けられるが、学級の役に立っているという実感がもてないでいることが分かった。この実態から、よりよい学級生活を築くために、学級における活動や児童自身の頑張りについて、教師が評価したり児童同士が認め合ったりする機会が必要であり、よりよい学級生活を築くことへの関心・意欲を高め、集団の一員としての思考・判断を深めることにつながると考えた。

《学級会（話し合い活動）》



「22. この学級は、全ての意見を確認してから決定しようとしている」、「23. この学級は、みんなが納得できる状態になってから決定しようとしている」では、9割の児童が肯定的な回答をしている。

しかし、項目18～21の4つの項目全てで、4割近くの児童が否定的な回答（どちらかというとはまらない、当てはまらない）をしている。その理由として、「意識して発言したり、考えたりしたことがなかった。」と挙げている児童がいた。これは、児童が何を大切に話し合いをすればよいかを理解していないからではないかと推測される。また、児童にただ話し合いをさせているだけで、教師が児童のよい発言の価値付けを十分にはできていないのではないとも考えられる。そこで、学級全体が同じ目標に向かって、相手を意識して話し合いに参加することができるよう、提案理由と合わせて話し合いのめあてを設定することが必要であると考えた。

### 3 実践研究（検証授業）

#### (1) 学級活動（1）「学級や学校の生活づくり」における検証授業

- 9月10日（火） 第5学年 議題「お楽しみ会をしよう」
- 10月 8日（火） 第2学年 議題「お誕生日会をしよう」（集会活動）
- 11月11日（月） 第4学年 議題「係活動を紹介し合い、係をパワーアップしよう」
- 11月26日（火） 第4学年 議題「4年2組の歌をつくろう」
- 12月12日（木） 第5学年 議題「2013年ふり返り望年会をしよう」（集会活動）
- 1月14日（火） 第2学年 議題「3学期の係を決めよう」

#### (2) 学級活動（2）「日常生活や学習への適応および健康安全」における検証授業

- 6月10日（月） 第4学年 題材「自分らしさ 友達のもち味」
- 6月24日（金） 第6学年 題材「『個』と『集団』」
- 10月25日（金） 第4学年 題材「自分や友達のよいところ」

## 研究の視点に関する手だてと児童の変容

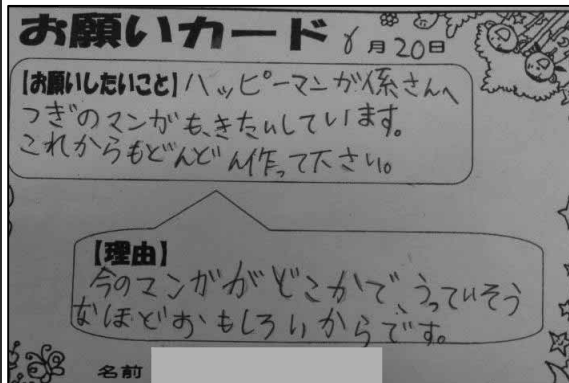
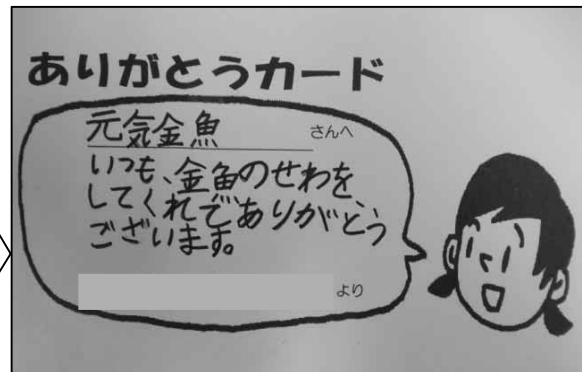
### 視点1 役立っていることの実感

#### 手だて① 児童相互の価値付け



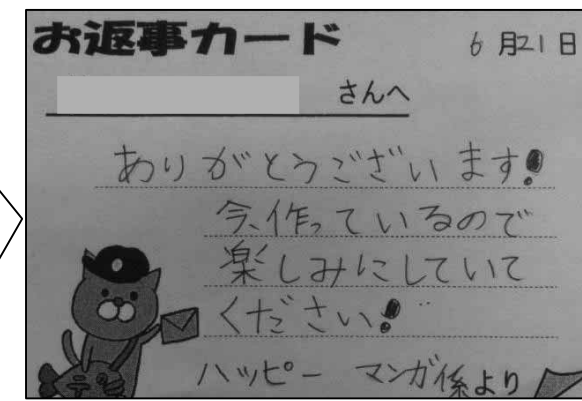
教室の掲示板に、それぞれの係への感謝の気持ちを伝えたり、助言をしたりすることができるコーナーを作った。感謝の気持ちを伝える「ありがとうカード」、アドバイスをする「お願いカード」、係から返事をする「お返事カード」の三種類を用意した。

他の児童から、係の活動内容についての感想等をもらうことにより、友達が楽しんでいることや、感謝してくれているということを実感することができた。



係で取り組んでほしいことや活動をよりよくするためのアドバイスをお願いカードに記入し、掲示した。各係の活動について学級全体で考え、交流することにより、児童はさらに創意工夫して活動することができた。

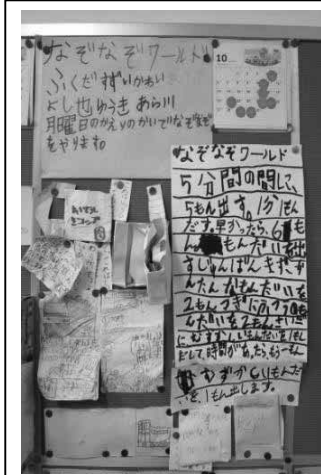
ありがとうカードやお願いカードで感想等をもらった係は、係内で内容を検討し、お返事カードを書いた。掲示板に掲示することにより、カードを書いた人だけでなく、学級全体で返事の内容を把握し、共有することができた。



「カードたくさん掲示板」に積極的にカードを貼ろうとする児童の姿が見られるようになり、互いの活動により関心を抱くようになった。ありがとうカードには、互いの活動がよりよい集団づくりに役立っているという内容の記述が増えた。お願いカードに書かれている内容に応えようと話し合う姿が見られるようになった。

### 手だて② 当番・係活動の活性化

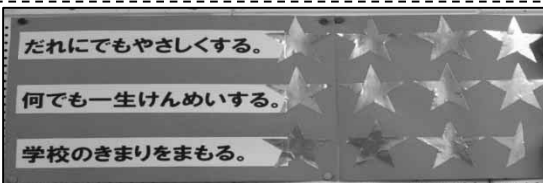
当番活動と係活動とが入り交じったものとならないように、年度当初にオリエンテーションを行った。朝学習の時間等を活用した係会議を行い、活動時間を確保した。仕事完了のシールを貼ったり、次の当番へのアドバイスをしたりした。また、活動計画が明示できるカレンダーや係コーナーも作った。担任は活動に対しての価値付けを行い、次への意欲付けをした。



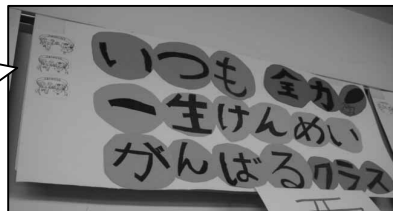
係からの発信回数が増えたり、係掲示板を隙間なく埋めたりするほど、活動が活性化した。

### 手だて③ 達成感の可視化

学級目標に学級全体が近付くことができた際に、☆印やマスコットを貼り、みんなが達成感を味わえるようにした。



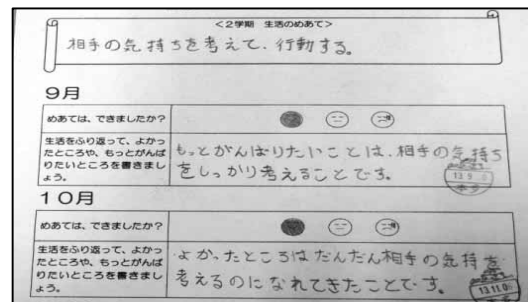
学級の  
マスコ  
ット



「次は〇〇をがんばればもっと学級がパワーアップするね。」と具体的に考え、行動する姿が見られた。

### 手だて④ 学級目標に向かう個人目標

自分たちで集団をつくっていくという視点で学級目標に対する個人目標を設定した。毎月末に目標の振り返りを行い、常に自分の目標を意識して活動できるようにした。



個人目標を設定し、振り返りを行うことにより、振り返りカードには、学級生活をよりよくしようとする言葉が見られるようになった。

【検証授業】「係活動を紹介し合い、係をパワーアップさせよう！」（第4学年 係活動）



【活動の概要】



前期の係活動について、「自分たちの活動内容をもっとみんなに知ってほしかった。」「ポスターを貼っていたけれどみんなよく見てくれていたのかな。」「計画を立てたけれど忘れてしまい、できなかった。」という振り返りがあった。また、日頃から教室内に設置してある『カードたくさん掲示板』を活用して他の係に感謝の気持ちを伝えたり、よさを伝えたり、アドバイスや要望を出たりする活動を継続的に行ってきた。

後期の係活動では、学級のみみんなに紹介する活動を行い、友達から様々な意見をもらうことにより、今後の活動に役立てていきたいと考えた。そこで、本議題を選定した。

本時の活動では、係ごとに活動内容を紹介し、今後の活動をさらに充実させるためにどのようにすればよいかを話し合った。担任は日頃の係活動の様子や話し合いの様子を細かく見取り、終末の助言でそれぞれのよさについて価値付けを行った。

〈本時の様子〉

活動内容	◇手だて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">考察</span>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめの言葉</li> <li>・ 司会グループの紹介</li> <li>・ 議題、活動のめあての確認</li> <li>・ 活動の順序の確認</li> </ul> 	<p>◇児童が前期に行った係活動の振り返りを用いて議題を選定し、何のために話し合うのか、活動のめあては何かをはっきりとさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>児童が本時の活動の必要性を感じ、たくさんの意見を交わすことができた。</p> </div> <p>◇学級会コーナーに、話し合いの内容や発表の順番などを掲示する。</p> <p>◇計画委員会への指導やカードの記入なども事前に行う。</p> <p>◇各係の発表内容を考えておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>活動内容を事前に周知することができ、滞りなく活動することができた。</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 係を紹介する (紹介後に意見交換)</li> <li>① クラスニュースペーパー係</li> <li>② ポスター・マンガHAMS係</li> <li>③ ピカ☆デコ係</li> <li>④ ミュージックエボリューション係</li> <li>⑤ みんなでプレイ&amp;エンjoy係</li> </ul>	<p>◇他の係に対して感謝の意を伝える「ありがとうカード」と、要望を伝えることができる「お願いカード」を用いる。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どの係にも「〇〇をしてくれてありがとう。これからも期待しています！」などという意見が多数出され、今後の活動への励みにつながった。</p> </div>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・係ごとの話し合い (係に対する要望について各係で話し合う。)</li> <li>・話し合って決まったことの発表 (係のリーダーが発表)</li> </ul>	 <p>要望を基に今までの活動を見直し、さらによりよくしていくための方法を考え、次の活動に活かすことができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生からの話</li> <li>・おわりの言葉</li> </ul>	<p>◇学級会ノートの振り返り欄を工夫する。</p> <p>月に一度、係活動を振り返らせるとともに、以前自分が書いた反省も見られるようにしたことで、次の活動に活かすための振り返りができるようになった。</p> <p>◇係紹介の様子や児童の発言、態度を具体的に称賛し、それぞれのよさについて価値付けを行う。</p> <p>日頃の活動の様子も含めて称賛した。児童の振り返りからは、「喜ばれてうれしい。やってよかった。」「これからも続けるので、楽しみにしていてほしい。」など、前向きな言葉があり、本時の目標を達成することができた。</p>

**【研究の視点に対する考察】**

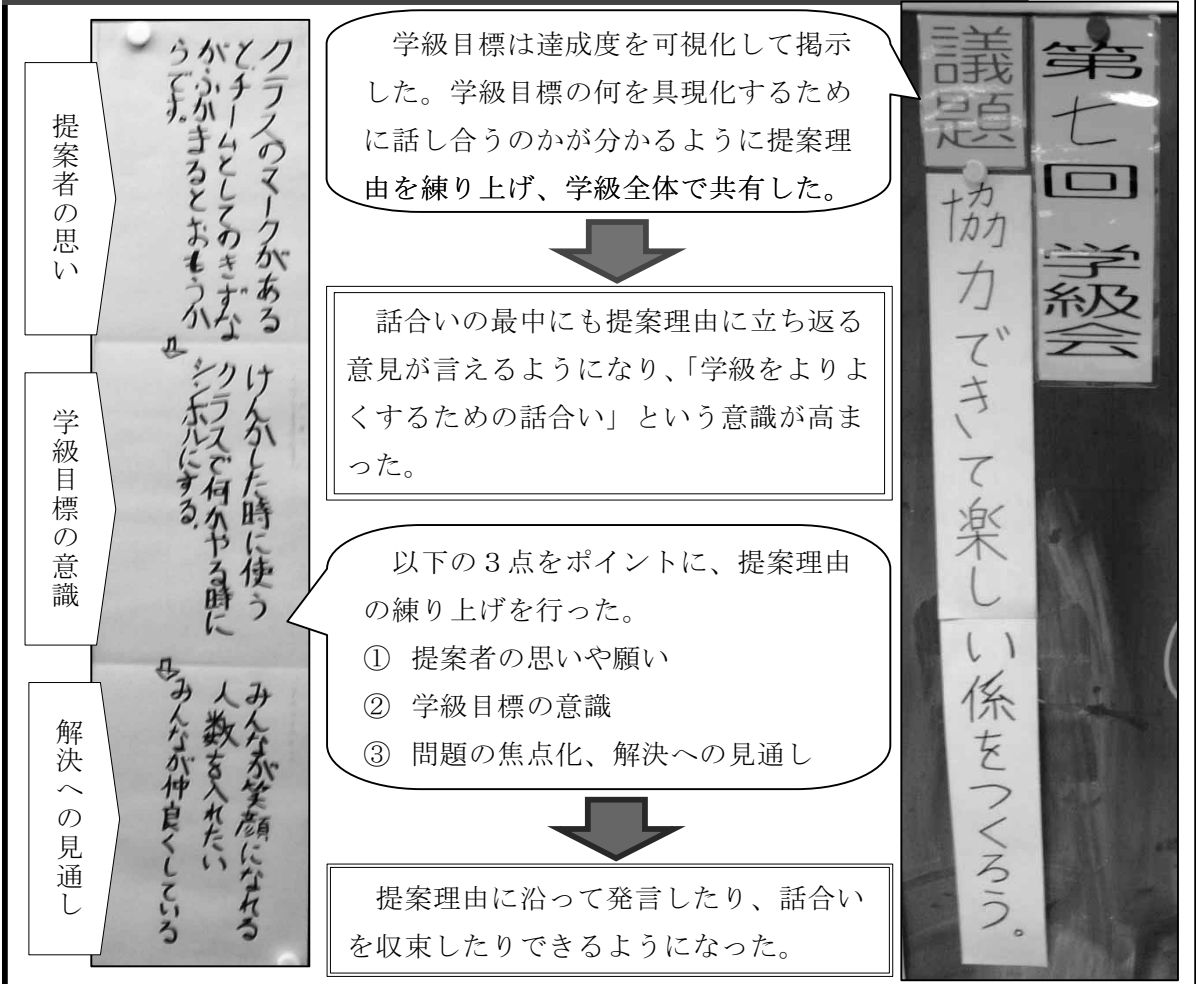
児童は自分たちのアイデアを生かして係活動に取り組んだ。仕事をして認められることで自信を付け、達成感を味わい、役立っている実感をもつことができた。そして「学校や学級をよりよいものにしていくのは自分である。」という意識をもち、学級生活の場で活かしていこうとする態度が日々の生活の中で見られるようになった。

しかし、授業の位置付けは、学習指導要領に照らし合わせ、本時のねらいや決定する内容を考えると、活動内容(1)よりも、活動内容(2)として扱った方がより効果的であると考察された。

## 研究の視点に関する手だてと児童の変容

### 視点2 話し合いの充実

手だて① 学級目標に近付くための議題と、提案理由の練り上げ



手だて② 話し合いのめあての設定

話し合いの内容を深め、よりよい集団決定ができるようにさせていくために、話し合い方を話し合いのめあてとして設定する。提案理由とは区別し、話し合いにおいて気を付けるポイントを、教師が意図的に設定した。学級の実態に応じて達成しやすいものから徐々に高度なものになるようにした。

<話し合いのめあての例>

- ・理由をつけて発言しよう
- ・実際にやっていることを想像して意見を言おう
- ・意見のよいところや違いに目を向けよう
- ・友達の意見を聞いて、新たな自分の意見を考えよう
- ・学級全体のことを考えて発言しよう
- ・友達の気持ちを考えながら発言しよう

話し方や聞き方を意識して取り組む児童が増え、その結果、互いの考えを大事にする発言ができるようになった。



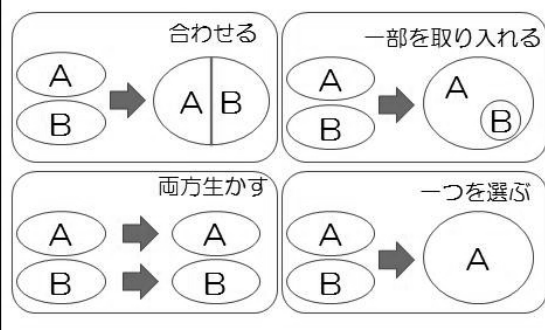
### 手だて③ 学級会オリエンテーション

児童によって話し合いの経験に差があるので、学級会オリエンテーションを行い、話し合いの進め方を指導した。

<内容>

- ① 児童だけで決められることと決められないこと
- ② 必要な役割について  
司会・副司会・黒板記録・ノート記録／フロー
- ③ 話し合いの進め方
- ④ 話し合いのまとめ方

### 話し合いのまとめ方（例）



明確な役割があることで話し合いが円滑に進むようになった。また、まとめ方を指導したことで互いに納得できる発言が見られるようになった。

### 手だて④ 教師による助言の工夫

話し合いがそれた時や停滞した時などは教師が途中で助言を行った。

<助言例> ・司会を助けてくれる人はいませんか。  
・試しにやってみましょう。  
・提案理由に立ち返ってみると、どのような意見が考えられるでしょうか。

その場の助言をしたことで、児童が話し合いを助ける発言や、提案理由に立ち返った発言をし、集団決定に向けた話し合いをすることができた。

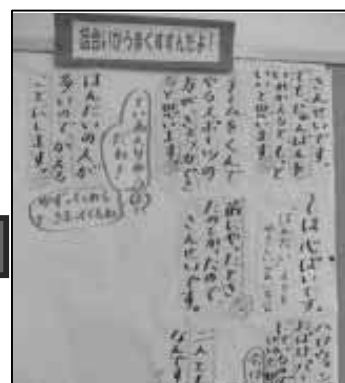
### 手だて⑤ 教師による価値付け

終末の助言において、話し合いを深める発言やよりよい集団決定につながった発言を取り上げ、価値付けた。

<終末の助言例>

- ・発言の内容が伝わらなかった友達のために、〇〇さんが言い換えて説明してくれましたね。
- ・△△という考えと□□という考えのよいところを合わせた意見でしたね。
- ・友達の考えのよさを見つけて、自分の意見を変えることができましたね。

話し合いを進めたり深めたりするきっかけとなった児童の発言を掲示し、いつでも振り返ることができるようにした。また、教師からの一言を添え、何がよかったのかを価値付けた。



教師の価値付けにより、児童は自分や友達のよさに気付くようになり、認め合いにつながった。また、話し合いを進めたり深めたりする児童の発言を掲示することにより、友達の発言のよさに着目するようになった。

【検証授業】「お楽しみ会をしよう」（第5学年 話し合い活動）

【活動の概要】


本議題は、「もっと仲良く協力できるクラスにしたい。」「1学期のがんばったポイントがたまったからお楽しみ会をしたい。」という児童の願いから選定された。教師は、「自分たちの力で、協力して集会ができた。」という自信をもって2学期をスタートしてほしいという願いをもっていた。

話し合いのめあては、「友達の意見を受け止めよう」としたが、全員が達成できるように「聞く・質問する・言い替える」と具体的に設定した。

事前に計画委員が、学級全体からやりたい遊びを書いたカードを集め、提案理由が達成できる遊びに絞った。また、遊びの中で考えられるルールの工夫を集め、教室に掲示した。さらに、計画委員が事前に意見を分類し、意見の傾向を把握するとともに、学級全体に周知した。

《本時の様子》

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に出していた意見</li> <li>「 」 本時で出された意見</li> <li>○ 決定したこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 手だて</li> <li>◎ 提案に基づいた意見</li> </ul> <p>よりよい集団決定を意識した発言</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">考察</div>
話し合い	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【議題】 「お楽しみ会をしよう」</p> <p>【提案理由】 ポイントがたまったからみんなでお楽しみ会をして、学級目標の「協力しよう」を深めたい。</p> </div> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>&lt;チーム分けの工夫を考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男子3人、女子3人のチームがいい。</li> <li>・ じゃんけんでチームを決めたい。</li> </ul> <p>「平等なチームがいいと思います。」</p> <p>「女子対男子だと圧倒的に不利になるので、男子3人、女子3人がいいと思います。」</p> <p>「○○さんと□□さんはチームを分けた方が平等になると思います。」</p> <p>「じゃんけんは勝ち続けたら力が平等にならないと思います。」</p> <p>○チーム分けは男女の人数を平等にして、担当が決めます。</p> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学級目標に近付くための議題と提案理由</li> <li>◇話し合いのめあての設定</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">                 友達の意見を受け止めよう                  ～聞く・質問する・言い替える～             </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇計画委員による事前準備</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                 「平等」の意味が「力」なのか「男女比」なのか共通理解させる必要があった。             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                 チーム分けについては、                  ① 分け方（強さ重視・分け方重視）                  ② 方法（じゃんけん・誰かが決める）と順序立てて話し合わせたら、より内容を深めることができたと思われる。             </div> </div> </div>		

<p>話し合い</p>	<p>&lt;王様ドッジボールの工夫について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子は女子に利き手と反対の手で投げる。</li> <li>・全員が投げる。</li> <li>・王様を2人にする。</li> </ul> <p>「利き手と逆の手で投げることに反対です。それだと当てられなくてゲームが進まないからです。」</p> <p>「<u>ぼくが女の子だったら、男の子のボールはこわいと思います。</u>」</p> <p>「<u>それなら利き手の逆ではなくて、スローインだと届くと思います。</u>」</p> <p>○男子は女子にスローインで投げることにします。</p> <p>「王様2人に反対です。すぐ見付かるところからです。」</p> <p>「王様は2人に賛成です。一人だとすぐ終わってしまうからです。それから活躍する人も増えると思います。」</p> <p>「<u>1回戦は王様1人で2回戦目に王様2人にすればいいと思います。</u>」</p> <p>○王様ドッジボールは1回目が王様1人で、2回目は王様2人にします。</p>	<p>◎友達の立場に立った意見</p> <p>◎出た意見を踏まえた新しい意見の提案</p>  <p>◎2つの意見の両方を生かすことができる意見の提案</p>
<p>振り返り</p>	<p>「○○さんが2つの意見を合わせる発言をしていました。」</p> <p>「□□さんが、納得してゆずっていました。」</p>	<p>◇終末の助言</p> <p>今回はみんなが活躍できるような工夫を考えることができました。</p> <p>「スローイン」など、友達の意見を聞いて新しい意見が出ました。友達の意見を受け止められていたからでしょう。</p> <p>お楽しみ会の準備も、協力してできるといいですね。</p>

【実践】集会活動では、全員が役割をもち、提案理由の「協力しよう」を意識した発言や行動が多く見られた。活動後の振り返りでは、提案理由に立ち返ったものが多く挙がった。また、「ありがとうカード」でそれぞれの役割を認め合うことができた。

【研究の視点に対する考察】

ルールの工夫という話合いの柱において、提案理由に立ち返った意見が児童から出なかった。提案理由に「仲良くする」を加えるなど、話合いを焦点化しやすい言葉が提案理由にあるとよいと考察された。

## 研究の視点に関する手だてと児童の変容

### 視点3 次に活かす振り返り

#### 手だて① 学級活動の予定と流れの可視化

学級会の議題を話し合い、大まかに決めた。掲示し、活動の見通しをもてるようにした。

また、学級活動の流れを明確にし、現在は何をしているのか、これから何をするのかを児童自身が自覚できるようにした。そして、フロアー・計画委員としてのそれぞれの役割を記載した。

学年 クラス	順 番	クラス	司会グループ
	①議題を集めよう	○議題に書くこと クラスを整理するときに みんなが話し合いの議題 から取り出すこと	○学級会の役割分担
	②議題を整理して決めよう		○議題決定 議題に書いてあるから ○投票理由の決定 みんなが話し合い ○みんなに議題を伝える
	③話し合いの準備をしよう	○意見のあつても 意見カード記入	○役割ごとに準備 「誰が 誰と話し合い 議題 議題-議題」を準備 「議題-議題」を準備 ○先生どうやら合わせ
	④学級会を開こう	☆どどん参加！ ○ふり返り （※必ず準備してから）	○学級会の進行 ○司会グループとしての ふり返り
	⑤実せんしよう	○みんなで協力して決まったことを 達成しよう！	
	⑥実せんのふり返りをしよう	○目的を達成できたかふり返ろう！ ○クラスが成長するための新たな課題を 見つめよう！	



自ら何をすべきかを考え、自主的に準備を進めることができた。

「次の学級活動は何だろう」と、次の活動への関心・意欲を高めることができた。また、前回の活動で見つかった課題の解決に向け、予定表を見ながら準備を進めることができた。

学級活動予定表 4年2組

日	時間	曜日	内容	準備	進行	振り返り	その他
18	5:00-5:15	水	学級会のあつてきて				学級会式
19	5:00-5:15	木	議題に決まらず議題を決めよう				
20	5:00-5:15	金	議題のあつてきて				
21	5:00-5:15	土	議題のあつてきて				
22	5:00-5:15	日	議題のあつてきて				
23	5:00-5:15	月	議題のあつてきて				
24	5:00-5:15	火	議題のあつてきて				
25	5:00-5:15	水	議題のあつてきて				
26	5:00-5:15	木	議題のあつてきて				
27	5:00-5:15	金	議題のあつてきて				
28	5:00-5:15	土	議題のあつてきて				
29	5:00-5:15	日	議題のあつてきて				
30	5:00-5:15	月	議題のあつてきて				
31	5:00-5:15	火	議題のあつてきて				

#### 手だて② 提案理由の活用

提案理由は、話し合いだけでなく、実践までを意識して作成した。そのため、最初に提示した提案理由を集会活動でも提示し、児童に意識させた。



集会活動でも提案理由を掲示することで、児童は、話し合いで決まったことを実践しているという実感がもてた。実践後の振り返りには、「話し合っただけで決めたことが守れた」などの言葉が見られた。



手だて③ 話し合い活動と実践の連動した学級活動カード

視覚的に、話し合いから実践後の振り返りまでが一連であるということが分かるように、話し合いのカードと集会のカードを見開きで使用できるようにした。振り返りに対して教師が価値付けを行い、次の話し合い活動や実践へ活かせるようにした。

<学級活動カード例>

話し合い活動  
カード

集会活動  
カード

児童の  
振り返り

The image displays a 'Classroom Activity Card' form with fields for 'Discussion' and 'Meeting'. Below the form is a 'Child's Reflection' handwritten note. To the right are two examples of 'Meeting Cards' with handwritten text. The first meeting card says: '学年集会で仲良く楽しくごきこよかったです。実行委員会さんが、くかりとわめてやルールを発表してくれて、仲良くなることができました。他のクラスが中心になる時に、協力して、とってもいい会になりました!!' The second meeting card says: '学年集会は、やてよかったです。理由はみんな全力で楽しく遊べたからです。いい会になりましたね! ルールを工夫して、交流しながら、みんなが力を合わせて、おもしろい会になりました。次も、もっと楽しく!!'

児童の振り返りに対して、教師が助言を書くことで次の活動に向けて、「次もがんばろう」と声にする児童がいた。また、友達によさに気づき、互いに学び合うこともできた。そして、よりよい活動に向けた取り組み方を考えることができた。

手だて④ 次の計画委員への引き継ぎ

司会グループノートを作成し、役割ごとに上手くできたことや、工夫したこと、改善点などを記録し、次の計画委員へ引き継いだ。

最初は教師の支援が多かった計画委員が、記録を活用し、事前準備や話し合いを、自らの力で進められるようになった。



【検証授業】「お誕生日をしよう」（第2学年 集会活動）

【活動の概要と考察】

議題は、児童の「前回のお誕生日会で、みんながお祝いをしてくれてうれしかったから、今度はお礼をしたい。」「お誕生日の人に喜んでもらいたいから、みんなで話し合いをしたい。」という発言から選定された。

議題選定の理由は、①前回のお誕生日会のよかった点や改善点を生かした活動が期待できる。②児童の話し合いたいという気持ちが高い。③自分が楽しむだけでなく、お祝いする友達のことを考えた活動が想定できる。④全員に役割をもたせることができ、係ごとに仲良く協力して準備を進めることができる。⑤自分の担当する役割についての頑張りや課題を書くことができる。と考えたからである。

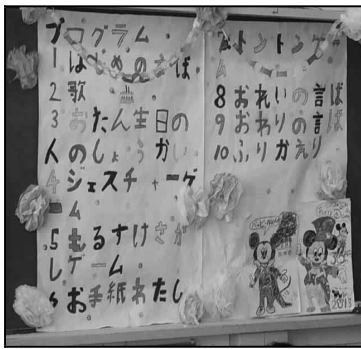
話し合い活動では、前回のお誕生日会の資料や計画委員会が作ったアンケートを基にして、「足していく話し合い」を行った。よかった内容は、そのままプログラムに残すことができるので、話し合いの時間は短く進み、全員が話し合う内容を理解していた。また、「よりよくしていこう」とする課題解決の話し合いができ、工夫を考えている発言が多く出された。

集会活動では、全員が仲良く、計画に沿って活動することができた。

〈本時の様子〉

活動内容	◇手だて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">考察</span>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室準備</li> <li>・ お誕生日の人入場</li> <li>・ 司会の紹介</li> <li>・ 提案理由の発表</li> <li>・ 集会のめあての発表</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめの言葉</li> <li>2 歌</li> <li>3 お誕生日の人紹介</li> <li>4 ゲーム</li> <li>5 お手紙わたし</li> <li>6 ゲーム</li> <li>7 お礼の言葉</li> <li>8 おわりの言葉</li> </ol> </div>	<p>◇提案理由は、児童が作成したプログラムに貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【提案理由】 みんなで仲良く準備をして、7・8・9月のお誕生日の人に喜んでもらいたいから。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>提案理由を集会の場でも掲示したことで、話し合い活動とのつながりをもたせることができた。</p> </div> <p>◇集会のめあては、提案理由に基づき、担当が身に付けさせたい力を加味し、提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【集会のめあて】</p> <p>お祝いする人：自分の役割を果たそう。</p> <p>お誕生日の人：準備してくれたみんなに「ありがとう。」の気持ちを伝えよう。</p> </div>

<プログラム>



<友達のよいところ紹介>

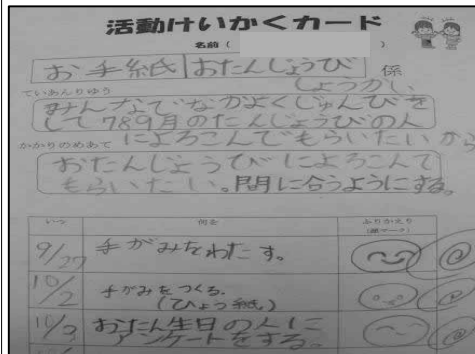


◇係は、全員に役割を与えることができるように担任と司会グループが話し合い、設定する。

・係名 (仕事内容)

- ・ミュージック係 (集会で歌う歌のアンケートをする。指揮をする。オルガンを弾く。)
- ・かざりつけ係 (教室のかざりつけを考え、作ったものをかざる。)
- ・お誕生日の人紹介係 (友達のよいところを見付けて、発表する。)
- ・お手紙係 (手紙を回収する。表紙を作る。手紙を渡す。)
- ・ゲーム係 (誕生日の人は楽しめるゲームを企画する。)

<活動計画カード>



「活動計画カード」を活用したことで、全員が見通しをもって準備することができた。

- ・振り返りカードの記入
- ・発表



- ・先生の話



◇集会活動後の振り返りカードは、事前に立てためあてや役割について振り返りをさせ、担任から価値付けをする。



誕生日だった児童は、「友達に、鉄棒がとくいだね。また遊ぼうね。と言ってもらえてドキドキした。」「みんなからお手紙をもらって嬉しかった。」と書いてあった。お祝いした児童は、「みんなが、もっと仲良くなった気がする。」と書いてあった。

【研究の視点に対する考察】

児童からは、「提案理由通り、お誕生日の人が喜んでくれてよかった。」といった振り返りの言葉があり、一連の活動として指導したことが効果的だったと考察された。他にも、よりよくしていくための方法を考えたり、友達の活動のよさを認めたり、達成感を味わったりするものがあつた。さらに、教師から、一人ひとりの活動のよさや意欲を評価するコメントを書き、価値付けをしたことで、次の活動へ活かすことが期待できる活動ができた。

## 研究の視点に関わる活動内容（２）における実践と児童の変容

### ～「よさ」の視点を広げる・望ましい人間関係の形成～

本研究では、経験を次回へ生かしていく力が、研究主題の「よりよい生活を築こうとする」につながると考え、話し合いから実践、振り返りまでを一連の活動とした指導を大切に、活動内容（１）を中心として研究を進めてきた。と同時に、「自分のよさに気付ける児童、友達のよさを認められる児童」を育成したいという願いがあった。この願いには、自分に自信がもてない今の姿がある。そこで、活動内容（２）を適切に組み込んでいくことにした。

「よさ」とは、「他者と比べて秀でた能力だけではない」と児童に気付かせ、互いを認める規範を広げるため、次のような姿を重視して指導した。

- ・ 「〇〇をがんばっている」などの個人内の努力
- ・ 「〇〇がよくなってきた」などの個人内の成長
- ・ 「優しい」「頼りになる」などの、集団内における関わり方

#### 【題材】「個」と「集団」（第６学年）

【題材設定の理由】高学年になり、「周りから嫌われたくない」と自分らしさを出さずにいる児童や、周囲の言動に流される児童が少なくない。そこで、自分は学級を構成している一員であるという意識をもち、よりよい学級にするためにできることに気付かせたいと考えた。「物語」を使用したのは、①本音を出し合わせたい②どのような仲間を作っていくべきかに焦点を当てたいと考えたからである。また、課題や大切なことが明確になるように、「集団の構成」を可視化した。

#### 【本時の流れ】

##### <導入>

- ・ 「裸の王様」の話の中で「個」と「集団」の関係を見付ける。
- ・ なぜ「布が見えない」と言えなかったのかを考える。

##### <展開>

- ・ 自分自身の友人関係と比べて考える。
- ・ 望ましい集団に近づくために大切なことは何かを考える。

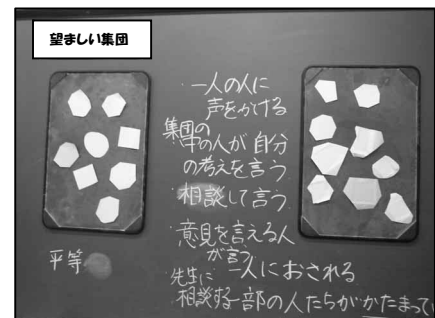
##### <まとめ>

- ・ 学級を構成する一員として、自分が大切にしていきたいことを書く。

#### 【考察と児童の変容】

学級の友達関係を客観的に見つめ直す機会になった。

自分が他を寄せ付けない集団を作っていることに気づき、学級の誰もが楽しく過ごせる仲間づくりをする姿が見られるようになった。また、自分の考えを友達に伝える大切さが分かり、進んで伝えようとする姿が見られるようになった。



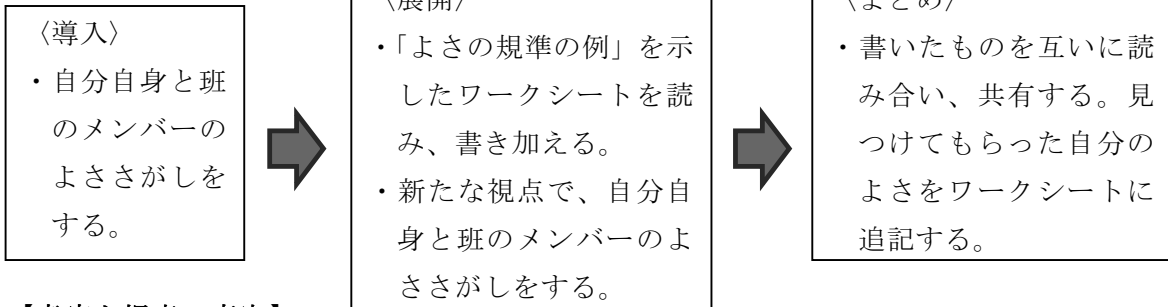


【題材】 自分や友達のよさ（第4学年）

【題材設定の理由】 コミュニケーション・学習・運動などについて技能の高い児童は自信を持っているが、そうではない児童は自信をもてないでいる実態がある。学級活動に関するアンケートでも、「自分のよさを分かっている」「学級のために役立つことをしている」という項目については、他の項目と比べて前向きな回答が少なかった。

そこで、自他のよさについての捉え方を広げ、児童が自分自身を多面的に認め、児童同士が認め合うことで自信をもつことを目指し題材を設定した。

【本時の流れ】



【考察と児童の変容】

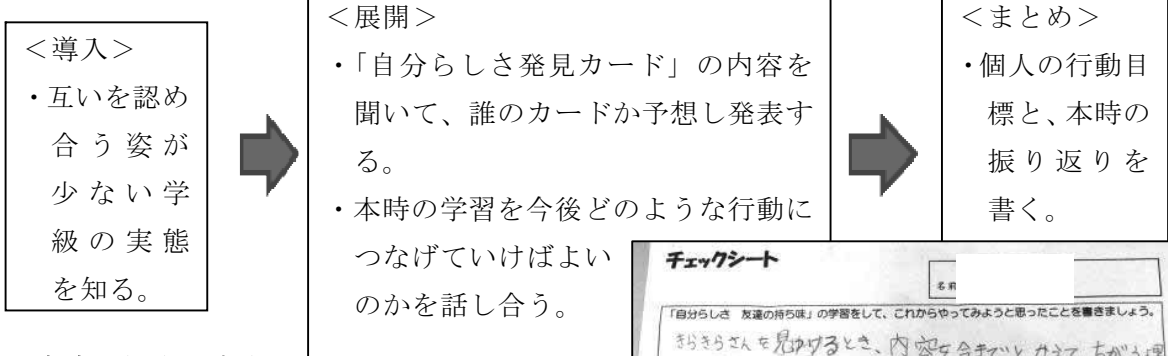
授業では、互いに顔を合わせて相手のよさを書くということに照れもあったが、「個人の内面」「頑張り」に目を向けて考えることができる児童が多かった。また、友達の「よさ」を表す言葉が増えた。

【題材】 自分らしさ 友達のもち味（第4学年）

【題材設定の理由】 よりよい人間関係ができれば、自分への自信につながり、互いをかけがえのない存在として捉えることができる。さらに、主体的、創造的に生きたいという願いをもつことができるようになる考えた。

自他のよさを見つめ合い、認め合うことで、互いの関係を捉え直し、望ましい人間関係を築く機会にすることを目指し、題材を設定した。

【本時の流れ】



【考察と児童の変容】

個人目標を一週間掲示し、振り返りを毎日行った。その結果、友達のよさを見付けようとする児童の数が増えた。

名前

「自分らしさ 友達のもち味」の学習をして、これからやってみようと思ったことを書きましょう。

きらきらさんを見かけるとき、内容を今までとがえてちがう理由で発表し、きらきらさんを見つめられるといいです。

自分で決めた取り組みができたかどうか、振り返りしましょう。(◎・○・△で)						
6/20	6/21	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28
木	金	月	火	水	木	金
◎	△	◎	◎	◎	◎	◎

振り返りてみた感想を書きましょう。

きらきらさんを見つめるといいと思っていたら最後までいじょうにきらきらさんが見つかりました、これからはついにいいです。

## VII 研究の成果と課題

研究を始めるに当たって、研究主題の設定、つまりどのような児童を育成したいかを部員で協議した。それぞれの考える、今の児童の問題点や育てたい力を出し合い、アンケートを作成し、実態調査を実施した。結果の分析を通して、学級活動の基盤となる「望ましい人間関係」を形成する必要があることに立ち戻った。自己を肯定的に捉えることや学級への所属感、支持的な雰囲気などを高め、そこからよりよい学級生活を目指して活動していくこととした。

様々な学級の実態がある中、共通して取り組んだ事に対しては、児童の意欲向上・話合いの深まりなどの成果が見られた。指導していく中で見えてきた改善点については、教育研究員で共有し、よりよい指導について検討し、実践に取り入れた。その中からいくつかを以下に挙げる。

### 《研究の成果》

#### 視点1から…「進んで自分の役割を果たし、協力して取り組む児童」

- ・児童相互で価値付けをしていくカードのやり取りを通して、自分の役割に対して責任をもち、主体的に取り組む児童が増えた。

#### 視点2から…「友達の意見を大切にし、よりよい集団決定を目指す児童」

- ・少数派の思いも大切にし、学級全体が納得できる案を考えようとする児童が増えた。
- ・話合いを経験することで、「学級会は自分や学級をよりよくするためのもの」と捉え主体的に参加する児童が増えた。

#### 視点3から…「生活や活動・実践を振り返り、次に活かせる児童」

- ・話合い活動と実践とを一連の活動として捉え、以後の自分自身や学級をどうしていくべきかを考える姿が見られた。

### 《今後の課題》

#### 視点1「役立っていることの実感」に関して

- ・一部の決まった児童ばかりでなく、より多くの児童に役割を経験させていく必要性がある。

#### 視点2「話合いの充実」に関して

- ・児童が事前に記入するカードを、計画委員会で分析し、意見の分布や予想される質問・反対意見などを具体的に想定させる。学級会の流れや、行き詰まった際の対応についても考えさせ、必要に応じて助言できるように指導者が対応を考えておく。
- ・実践する内容を決める・内容の工夫を考える・学級の〇〇をつくるなど、様々な議題を経験し、集団決定に向けて話し合う力を更に伸ばしていきたい。

#### 視点3「次に活かす振り返り」に関して

- ・活動の振り返りを基にして新たな議題につなげるなど、問題発見能力に弱い面が見られた。引き続き、この点についての指導方法を追究していきたい。

**平成25年度 教育研究員名簿**  
**小学校・特別活動**

地区	学校名	職名	氏名
港区	港区立神応小学校	教諭	北川 優子
台東区	台東区立黒門小学校	主任教諭	◎本多 泰介
品川区	品川区立芳水小学校	主任教諭	○三浦 晴代
世田谷区	世田谷区立花見堂小学校	主任教諭	越智 尚美
中野区	中野区立江古田小学校	教諭	佐藤 真美
小平市	小平市立小平第九小学校	主任教諭	寺内 幸子
国分寺市	国分寺市立第八小学校	教諭	山崎 克典
国立市	国立市立国立第七小学校	教諭	星野 哲朗
国立市	国立市立国立第二小学校	主任教諭	北川 彩奈絵
武蔵村山市	武蔵村山市立第四小学校	主任教諭	上原 陽介
多摩市	多摩市立瓜生小学校	教諭	古江 梨沙
あきる野市	あきる野市立西秋留小学校	教諭	上杉 哲平
瑞穂町	瑞穂町立瑞穂第四小学校	教諭	加藤 奈美

◎世話人 ○副世話人

[担当]東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
指導主事 神谷 なおみ

平成25年度  
教育研究員研究報告書

小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕  
平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社